

くりのみ広場

くりのみ広場 令和7年春号（No.68）

発行・編集：社会福祉法人四幸舎和会 大阪府豊能郡能勢町下田尻20番地 TEL 072-735-2212 FAX 072-735-2213

発行責任者：大崎 年史

春号のキラキラさん

毎号 元気に輝く利用者を キラキラさんとして 紹介します！

春号は セブン&チェリー作業所 です

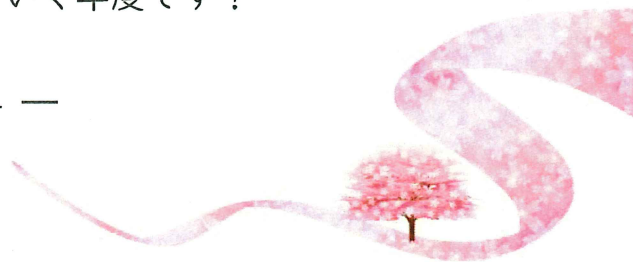


index

年 頭 所 感	統括施設長による今年度の事業方針です	P2～3
事 業 所 め ぐ り	春の事業所の様子をを紹介します	P4～5
職 員 コ ラ ム	おおざとのあかいやね職員より	P6～7
新人職員紹介・ひとこと		P8

入所施設の在り方を真剣に考えていく年度です！

— くりのみ園開設から25年 —



社会福祉法人四幸舎和会
理事長 大崎 年史

新年度を迎えました。法人スタッフ一同あらたな気持ちで、利用者支援の専門性向上に努めるとともに、地域共生社会の担い手としての役割を果たすよう励んでいく所存です。

昨年度（令和6年度）、障害福祉サービス等の報酬改定がありました。報酬改定は3年ごとに見直されます。今回の改定では、自立した日常生活を支援する『生活介護』がサービス提供時間に応じた報酬体系となったため、福祉関係者から経営を危ぶむ声が出ていました。当法人は、くりのみ園を含む4か所で『生活介護』を運営しており、各事業所において、サービス提供時間をしっかりとマネジメントすることに努めました。また、一定の条件（中核的人材養成研修受講終了など）を満たすことで、重度障害者支援加算を十分に取得できたので法人全体の事業活動収入は増額しました。今年度は各事業の稼働率を少し上げるよう指導し、さらなる経営の安定化を図っていきます。

さて、私事ですが、新年度から「第6次大阪府障がい者計画策定検討部会」の委員に就任します。現在の「第5次大阪府障がい者計画」は令和8年3月末までの計画で、残り2年間で次の計画（案）を策定し大阪府障がい者施策推進協議会へ意見具申する責務を担っています。大阪府の障がい者施策の最重点施策のひとつに、「入所施設や精神科病院からの地域生活への移行の推進」が掲げられており、これは国連・障害者権利条約の批准（2014年）に遡ります。批准したことで、障がい者の権利の実現に向けた取組みが一層強化され、2023年9月、国連障害者権利委員会は、障害者権利条約に関する日本の取組

状況について 90 項目を超える勧告等を行いました。その中に「障害児を含む障害者の施設収容を廃止するため、迅速な措置をとること」、「精神科病院に入院しているすべてのケースを見直し、無期限の入院をやめ、地域社会で自立した生活を育むこと」の勧告がありました。当法人が加盟している日本知的障害者福祉協会でも居住施設（グループホームを含む）の在り方について、ここ数年活発な議論がなされています。これらを受けて、また、他法人の意見を聞きながら検討部会委員の務めを果たしていこうと考えています。

上記の話を受けて、少しくりのみ園の現状にお話しします。令和6年度の入院ケースが5件あり重度・高齢化が進んでいます。ハード面を見ても、全室個室ではなく、2人部屋を間仕切りしてパーソナルスペースを確保するにとどまっており、トイレ、浴室など高齢・高介護仕様になっていないのが実情です。早急に改善しなければなりません。倉垣ホーム（仮称）の開設に合わせて、くりのみ園の在り方（定員数の変更等々）も検討していきたいと考えています。

最後になりましたが、4月1日に辞令交付を行いました。人材確保が困難な中、今年度は3名の新卒を迎えることができました。7年連続で計15名

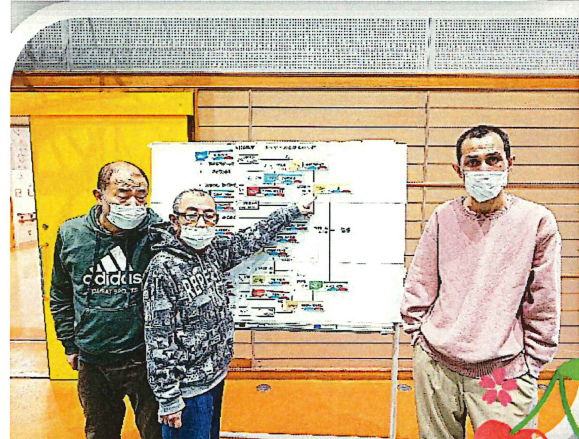


の新卒者へ辞令交付をしたこととなります。法人の将来を担うスタッフに成長していくのが楽しみです。





セブン&チェリー作業所



準優勝 おめでとう 第2回 ボッチャ大会 ひまわり杯



くりのみ園

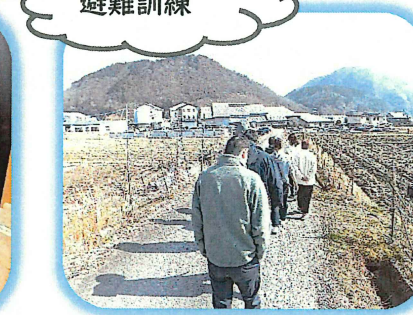
お散歩中です



避難訓練

おおざとの赤いやね

避難訓練



機関紙封入しています



「根拠のある支援」



おおざとの赤いやね 支援員 池部 宙彦

気付けば入職して4年という月日が過ぎ、時間の流れる早さに驚く今日この頃。今回初めてコラムを書く機会を頂いたので、1月に法人内で実施されたミニトレセミに参加して学んだ事を、今までの経験と一緒に振り返りながら書きたいと思います。

四幸舎和会は普段の業務に加えて沢山の研修の機会があります。自閉症の事は勿論、そもそも障がいとは何かといった基本的な話から、コミュニケーションの方法、メンタルヘルス研修など様々な研修があり学ぶ機会がたくさんあります。今回取り上げるミニトレセミは根拠のある支援を1から作る流れを学び実践する機会として実施されました。



ミニトレセミは2日間かけて講義とグループワークを繰り返す形の研修で、「学習スタイル（自閉症特有の理解の仕方や捉え方、特徴など）」、「アセスメント（相手を正しく理解すること）」、「構造化（毎日の生活を分かりやすくする為の方法）」、「介入（どの様に教えるのか）」これら4項目について学びました。

私が根拠を持った支援を学んでいて思い出す出来事があります。1年目の6月、新しくオープンする施設で右も左もわからないまま担当する利用者の方の一日のプログラムを作っていた頃、くりのみ園で普段ウォーキングマシンに取り組んでいると話を聞き準備をしてみました。実際に取り組んでいただいたところ、最初の1週間は取り組んで頂けましたが、その後は歩き始めてすぐマシンの縁に立って歩くことを止めてしまいました。「くりのみ園で経験したことがあるから新しい施設でもやってくれるだろう」「普段よく歩き回っているからきっと歩くことも好きだろう」と考えていましたが、一方的な私の期待だけで取り入れた為失敗してしまいました。結局その後もウォーキングマシンに取り組む事は無く、プログラムは中止となりました。入社して3ヶ月、自閉症の方を支援する難しさを体感した出来事でした。



この失敗を振り返ると色々な要因がありました。一番大きい原因はそもそも利用者の方がどんな人なのかをよくわからずプログラムを作っていたと思います。自閉症の方は学習スタイルで独特の理解の仕方や捉え方をされる為、これぐらいで分かるだろう、といった曖昧な伝え方では分からなかったり異なる解釈をされることがあります。その人が理解できる内容を分かる手段で伝えなかったことが失敗だったと思います。他にも要因は多々あると思いますが、全部書き出すとキリがないので振り返りはこれくらいにしておきます。



さて、ミニトレセミの話に戻りますが、改めて1から根拠を持って支援を作る難しさを学びました。

研修では検査の映像から、検査者が期待していた行動のズレをアセスメント、ある場面の構造化の案の検討、教える方法や手順まで丁寧に実践しました。普段毎日同じ利用者の方と接していると自分なりの人物像が出来てきます。その人の理解が進んでいるとも言えますが、自閉症の特性を理解していないとそれは理解ではなく思い込みになってしまいます。思い込みから支援を作ってしまうと、支援内容が特性とズレてしまい失敗してしまいます。ミニトレセミで1から支援を作る練習を行うことで、思い込みになっている支援は無いかを見直す機会にもなりました。一人一人に合った支援を作る為にも、初心を忘れず「根拠のある支援」を大切にしていればと思います。



スタッフから一言

今年1月に法人として支援を体系的に学ぶ場として『ミニトレセミ』を開催しました。

池部さんはその受講一期生です。ミニトレセミでは積極的に質問をしたり、意見交換の場面では悩んで頭を抱えたり、それでいて楽しそうに学ぶ姿勢が印象的でした。

支援はうまくいく事ばかりではありません。しかし、失敗からも学ぶことがたくさんあります。なぜうまくいかなかったのかを振り返る事で提供した支援と利用者の特性のズレに気づくことができます。今後も失敗を恐れず「根拠のある支援」に向けて学びを深めていってほしいと思います。

おおざとの赤いやね サービス管理責任者 豊川 郁子

新人職員紹介



かたやまの赤いやね

生活支援員 岡山 祐大

たくさんの方の事を学びながら、利用者の方の日常生活を支えられるよう励んでいきます



かたやまの赤いやね

生活支援員 恒石 遥香

四幸舎和会の一員として精一杯がんばりますので、よろしくお願いいたします



おおざとの赤いやね

生活支援員 矢崎 颯太

利用者さんに寄り添った支援員になれるよう頑張ります!!



★四幸舎和会のホームページ

(ブログを更新していますので、時々訪問してください)



URL <http://shikousya.jp>

ひ・と・こ・と

皆さんボッチャという競技をご存じですか？ボッチャという競技は、年齢、性別、障がいのあ
るなしに関わらず、すべての人が一緒に競い合うことができるスポーツで、パラリンピックなど
にも採用されています。ルールは簡単で、片手で握れる大きさのボールを使用するのですが、そ
のボールは、上から投げて下から投げて、あるいは蹴ることもできます。目標物に近づける
ことが目的で、投げ方については特に決まっていません。また、投げるのが難しい方には勾配
具を使い、参加することができます。誰でもできる「ボッチャ」、
興味があればぜひ調べてみてください。



セブン&チェリー作業所 支援主任 尾田 賢司